




① 学習指導案 → 別紙参照

② 事業実施報告書詳細

学校名 新潟市立小針小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
5	小針小学校	<p>小針のまちのためにできることを見つけるために、身の回りの疑問や問題に感じていることについて話し合った。</p> <p>そこで集めた情報をもとに自分たちに何ができるかを話し合い、これからの活動の方向性を考えた。</p>		<p>これまでの総合学習を振り返ることで、「地域のために活動する学習」、「クラスの仲間や地域の方と協力して行う学習」であることに気付いた。</p> <p>身の回りで起きている新型コロナウイルスによる関わり合う機会の減少の問題が小針でも同様に起きているのか調べたいという思いをもった。</p>
13	小針小学校	<p>西区が抱える課題や取組を知るために、アンケートを用いて家族を対象に調査したり、西区長から行政の立場として把握している西区の現状について伺ったりした。</p> <p>集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を決めた。</p>		<p>西区長へのインタビューから、新型コロナウイルスの影響により、高齢者の関わりをつくる事業の実施が困難となっていることに気付いた。</p> <p>その上で地域の高齢者の暮らしの問題に対して、現在の状況に適した交流の場を設定することで、高齢者の方々が関わり合う活動に取り組みたいという思いをもった。</p>
15	小針小学校	<p>地域の高齢者を対象にしたアンケートを分析し、交流会を開く上で年代別にどのような活動が好まれる傾向があるのか分析した。</p> <p>自分たちで選択した取組を健康福祉課や社会福祉協議会を含む、関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決めた。</p>		<p>西区健康福祉課の方からいただいた資料から、地域の茶の間で行われてきた活動や、地域の茶の間を実現するための課題やプロジェクトの進め方を知った。</p> <p>その上で、自分たちが実施したいと考えている活動を3つの条件で比較することによって、現在の状況における最適な活動を行っていくための見通しをもった。</p>
15	小針小学校	<p>「小針の茶の間プロジェクト」の計画を立てた。役割分担を行って、それぞれの準備を進めた。決定した活動内容をもとにプレ交流会を行い、関係者の方々からいただいた</p>		<p>行政の方々と共にプロジェクトを計画し、実施することで、地域の高齢者の暮らしを支える活動を行う方々の知識や企画の進め方、仕事に対する真摯な態度を感じ取ることができた。</p>

		<p>アドバイスもとにして、各プロジェクト単位で修正点を見つけ、計画の見直しを行った。</p> <p>感染症対策を十分に行った上で、地域の方を招き、「小針の茶の間」を小針小学校内で行った。</p>		<p>合わせて、新型コロナウイルスの影響がある中で、話し合いを重ねる過程で、自分たちが理想とする活動と実際に感染症対策に配慮した上で実施できる活動との隔たりに気付き、参加して下さる方々が安心して活動を行うための仕組みづくりの重要性に気付いた。</p>
1 2	西新潟市民会館	<p>「小針の茶の間」に参加していただいた方々のアンケートをもとに、これまで行った活動によって、課題の解決に近づくことができたか話し合った。</p> <p>「小針の茶の間」パンフレットを作成し、西区健康福祉課の方や地域の方々に、持続可能な運営方法の提案を行った。</p> <p>これまでの活動を振り返り、これからの自分が小針で続けていくことについて考え、伝え合った。</p>	 	<p>「小針の茶の間」に参加した方々からいただいたアンケートの反応をもとに自分たちの活動の意味や価値を振り返った。</p> <p>自分たちの地域にはつながりをつくろうと努力している方々がいることや、また自分たちの思いや願いを実現するためには多世代が協働し、参画する必要があることに気づき、これからもまちのために自分ができることを続けていこうという思いを高めることができた。</p>

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

自分たちが住むまちの良さと課題を子どもたちが捉え、新型コロナウイルス感染症の影響がある中で、まちの活性化のために実現可能なことを考え、実践していくことをねらいとした。その際、子どもたちが自分たちの解決すべき切実な課題として高齢者の暮らしに関わる問題を捉えることができるように、西区長に地域の人口減少・少子高齢化のデータやそれらの課題に対する区役所の具体的な取組を示しながら、子どもたちとやりとりしていただく機会を設けた。また、子どもたちが行政の方々と共に目標の達成に向けた交流の場づくりを行っていることを実感できるように、行政の方々ととのミーティングの中で意見を交流したり、自分たちで交流会の計画・実施→振り返り→改善を繰り返したりする機会を設けた。

(2) 実施にあたり苦労した点

新型コロナウイルスの影響がある中で、感染症対策を十分に行いながら、実際に交流の場を設定し、開催することがとても難しかった。子どもたちと共に、行政の方々と何度も打ち合わせを行い、知恵を出し合いながら、参加者も自分たちも安心して参加することができる内容や環境づくりに努めた。

(3) 児童の反応

小針に住む高齢者と会話をしたり、同じ場で共に活動をしたりすることで、多様な年代の方々の日々の暮らしへの願いや地域への思いを深く感じとることができた。また、地域の多世代の交流の場づくりの活動を行った際には、行政の方々と共にプロジェクトに取り組むことで、交流を生み出すための工夫やプロジェクトにかける思いを知ることができた。この活動を通して、コロナ禍で多世代の交流を図る活動を行う際に生じる課題にしっかりと向き合い、地域のつながりの再生を目指し、本気で小針の一員として貢献できる方法を考え続ける子どもたちの姿を見ることができた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

児童と共に担任が地域の方々と共に「小針の茶の間」の開催準備を行うことで、地域住民との積極的な関わりをもつようになり、地域からの信頼を築く結果につながった。また、行政や関係機関との連携を図ることで、実社会と学校とがつながって子どもたちの学習活動を進めていく、学習活動の流れを学校内で構築することができた。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

- ・地域の広報誌で今年度の「小針の茶の間」の様子が紹介された。
 - ・新聞等のメディアで、「小針の茶の間」の様子が取り上げられた。
 - ・子どもたちが作成した「小針の茶の間パンフレット」を地域に配布した。
- 「小針の茶の間」の活動が継続されることを地域の方々が強く望んでいる。子どもたちも学校として、この活動を続けていきたいと願っている。感染症の状況に十分注意を払いながら地域とのつながりをつくる活動の方法を今後も継続的に探っていく。

第6学年 総合的な学習の時間指導案

指導者 教諭 小川 雅裕

1 学びの質的向上のために

(1) 単元の構想

今年度の総合的な学習の時間で、新型コロナウイルスに起因する自分たちの身の回りの生活上の困り感について話し合う中で、これまで同様に友達と集まったり、人と関わったりすることができないということに課題が集約できることが分かってきた。子どもたちは、自分たちが住む西区の状況についても知りたいと考え、西区長の話聞く機会をもった。すると、西区では「人口減少・少子高齢化が進んでいること」、「新型コロナウイルスの影響により、高齢者を支える取組が実施できていないこと」がわかった。合わせて、これまでの総合学習を振り返り、どんな学習なのかについて話し合うと「地域のために活動する学習」、「地域の方と協力して行う学習」であることが分かってきた。そこで、子どもたちは6年生の総合で、「高齢者の方々と地域の方々がつながる活動を行いたい」と思いを高めていった。

小針に住む高齢者と会話をしたり、同じ場で共に活動をしたりすることで、多様な年代の方々の日々の暮らしへの願いや地域への思いを深く感じとることが期待できる。また、地域の多世代の交流の場づくりの活動を行う際には、行政の方々と共にプロジェクトに取り組むことで、交流を生み出すための工夫やプロジェクトにかける思いを知ることができる。さらに、コロナ禍の中で多世代の交流を図る活動を行う際に生じる課題にしっかりと向き合い、地域のつながりの再生を目指し、本気で小針の一員として貢献できる方法を考え続ける子どもたちの姿を期待している。

(2) 単元づくりのポイント

① 本気を引き出す課題設定

子どもたちが自分たちの解決すべき切実な課題として高齢者の暮らしに関わる問題を捉えることができるように、西区長に地域の人口減少・少子高齢化のデータやそれらの課題に対する区役所の具体的な取組を示しながら、子どもたちとやりとりしていただく機会を設ける。

② 体験的な活動と表現の充実

子どもたちが行政の方々と共に目標の達成に向けた交流の場づくりを行っていることを実感できるように、行政の方々とミーティングの中で意見を交流したり、自分たちで交流会の計画・実施→振り返り→改善を繰り返したりする機会を設ける。

③ 対話（関わり）の活性化

子どもたちが自分たちの話し合いの流れや論点を意識したり、話し合いをまとめる方法（思考ツール等）を選択したりしながら話し合うことができるように、授業の始まりに「話し合いのゴールとプロセス」を決定する時間を設ける。

2 単元名 : 小針のつながり再生プロジェクト

探究課題：身の回り的高齢者とその暮らしを支援する仕組みや人々

3 単元目標

小針で暮らす高齢者の方と関わったり、交流の場をつくったりする活動を通して、地域の高齢者の暮らしを支える取組に尽力する方々の思いや地域の交流の場を継続する意味に気付き、コロナ禍の中、世代を越えてまちに住む人々が交流していくために地域の一員として自分にできることを考え、行動しようとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 地域で起きている人口減少と少子高齢化の現状と、新型コロナウイルスの影響によって高齢者の暮らしを支える取組の実施が困難になっている状況に気付いている。 地域には、社会の状況に合わせて様々な工夫をすることで、高齢者の暮らしを支える取組をしている方々がいることを理解している。 高齢者の交流の場をつくる活動を通して、高齢者だけではなく、多世代が関わりをもち、地域全体の交流を目指し、継続することに意味があることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 西区長や行政の担当者へのインタビューから、高齢者を取り巻く状況をつかみ、交流会の実施のための課題や必要な取組について、見通しをもっている。 地域の交流の場でこれまでに行われてきた様々な取組を分類し、人と人の距離や交流の仕方に着目して、比較することで、自分たちが実施する交流会のプログラムを決定している。 アンケートで収集した情報をもとに、自分たちが実施した交流会の課題を明らかにして、交流会を継続していくための改善点を選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の交流の場をつくる活動を通して、高齢者の暮らしを支える行政の方々と関わりながら、現在の状況に合った最適な実施方法を追究しようとしている。 高齢者の方が交流できる場を目指して、友達と計画を実施するための話し合いを繰り返し行い、利用者の立場になり、実施しようとしている。 地域における交流の場づくりの活動を行うことで、高齢者の交流の再開に役立つことができた自分自身に気付き、地域の一員として世代を越えた交流のために継続してできることを考え続けようとする。

5 単元計画 (全60時間)

8月Ⅰ 私たちが小針のまちでできることは何だろう?(5時間)

- 活動① これまでの総合的な学習の時間を振り返り、総合的な学習の時間の学び方をつかむ。
活動② 身の回りの疑問や問題に感じていることを出し合い、小針のためにできることを見つける。
活動③ 集めた情報をもとに何ができるかを話し合い、これからの活動を考える。

<学習のねらい>

これまでの総合学習を振り返ることで、「地域のために活動する学習」、「クラスの仲間や地域の方と協力して行う学習」であることに気付く。自分たちの身の回りで起きている新型コロナウイルスによる関わり合う機会の減少の問題が小針でも同様に起きているのか調べたいという思いをもつ。

9月Ⅱ 関わり合う機会を増やすためにできることは何だろう(13時間)

- 活動① 西区が抱える課題や取組を知るために、アンケートを用いて家族を対象に調査したり、西区長から行政の立場として把握している西区の現状について聞いたりする。
活動② 集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその方法を決める。
活動③ 高齢者の方々の関わり合う機会をつくる活動で何を行うべきか、活動の種類とその順序を考える。

<学習のねらい>

西区長へのインタビューから、小針では全国の傾向と同様に少子高齢化が進んでいることを知る。合わせて、新型コロナウイルスの影響により、高齢者の関わりをつくる事業の実施が困難となっていることに気付く。その上で、地域の高齢者の暮らしの問題に対して、現在の状況に適した交流の場を設定することで、高齢者の方々が関わり合う活動に取り組みたいという思いをもつ。

10月Ⅲ 小針の茶の間プロジェクトを実現するために必要なことは何だろう(15時間)

- 活動① 自分たちの交流会で参考にすべき取組を見つけるという目的をもって、西区役所健康福祉課からいただいたパンフレットをもとに、過去に実施されてきた「地域の茶の間」の取組について調べ、「お話」「運動」「ゲーム」「物作り」等の視点で分類する。
活動② 地域の高齢者を対象にしたアンケートを分析し、交流会を開く上で年代別にどのような活動が好まれる傾向があるのか分析する。
活動③ 現在の状況において、自分たちが実施したい中心となる活動を「安心」「交流」「接触」という3つの条件で比較し、実現の可能性があるものを選択する。〈本時〉
活動④ 自分たちで選択した取組を健康福祉課、社会福祉協議会を含む、関係機関の方に提案し、それぞれの取組の実現の可能性について協議を行い、決定する。

<学習のねらい>

健康福祉課の方からいただいた資料から、地域の茶の間で行われてきた活動や、地域の茶の間を実現するための課題やプロジェクトの進め方を知る。その上で、自分たちが実施したい活動を3つの条件で比較することによって、現在の状況における最適な活動を行っていくための見通しをもつ。

11~12月Ⅳ 小針の茶の間プロジェクトを実施しよう(15時間)

- 活動① 「小針の茶の間プロジェクト」の計画(プログラム・役割分担等)を立てる。
活動② クラスで各プロジェクト(会場設営・広報係・道具準備・時間管理・衛生管理・接客など)の分担を行い、それぞれの準備を進める。
活動④ 決定した活動内容をもとにプレ交流会を行い、関係者の方々からいただいたアドバイスもとにして、各プロジェクト単位で修正点を見つけ、計画の見直しを行う。
活動⑤ 「小針の茶の間」を実施する。
活動⑥ 参加していただいた方には、活動内容に関わるアンケートを書いていただく。

<学習のねらい>

行政の方々と共にプロジェクトを計画し、実施することで、地域の高齢者の暮らしを支える活動を行う方々の知識や企画の進め方、仕事に対する真摯な態度を感じ取る。合わせて、新型コロナウイルスの影響がある中で、話し合いを重ねる過程において、自分たちが理想とする実施したい活動と実際に感染症対策に配慮した上で実施できる活動との隔たりに気付き、参加してくださる一人ひとりが安心して活動を行うための仕組みづくりの重要性を理解する。

1月~2月Ⅴ 小針の茶の間プロジェクトを続けるために(12時間)

- 活動① 参加していただいた方々のアンケートをもとに、これまで行った活動によって、課題の解決に近づくことができたか話し合う。
活動② 健康福祉課の方に、地域の方と協働して、持続可能な「小針の茶の間プロジェクト」の提案を行う。
活動③ これまでの活動を振り返り、これからの自分が小針で続けていくことについて考え、伝え合う。

<学習のねらい>

「小針の茶の間」に参加した方々からいただいたアンケートの反応をもとに自分たちの活動の意味や価値を振り返る。自分たちの地域にはつながりをつくらうと努力している方々がいること、また自分たちの思いや願いを実現するためには多世代が協働し、参画する必要があることに気づき、これからもまちのために自分ができることを続けていこうという思いを高める。

6. 本時の計画 (14 時間 / 60 時間)

(1) 本時目標

交流会で実施しようと考えている活動内容のよさと課題を比較したり、「安心」「交流」「接触」の3つの条件をもとに交流会で実際に行う活動内容を選択したりする活動を通して、交流とは、お互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付く。

(2) 本時に向かう児童の実態

健康福祉課の方からいただいた手紙で示された3つの条件を意識として、個人でどんな活動を行うべきなのかを判断することはできている。しかし、3つ条件のうちの「交流できる(参加者どうしが関わられる)」という条件の具体的な姿については、一人ひとりがもっているイメージに隔たりがある。

(3) 本時のしかけ

交流とはお互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気付くことができるように、ピラミッドチャートで話し合った際に迷った点があったグループを取り上げ、「交流ができる」とはどんな様子なのか、話し合う時間をとる。

(4) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価・〇手立て・くしかけ
<p>導入</p> <p>1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。(2分)</p>	<p>C1: 前は、自分たちでどの活動をするよいか考えました。</p> <p>C2: 今回は、交流会で行う活動は何がよいかについて話し合います。</p> <p>T1: 今日の学習課題は、</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><学習課題> 交流会で行う活動は何がよいか?</p> </div> <p>でよいですか。</p> <p>C3: はい。いいと思います。</p>	<p>○子どもたちが学びを自分たちで自覚して進めることができるように、日直が自分の言葉で本時の学習課題を学級に伝える。</p>
<p>展開</p> <p>2 学級全体で活動内容の候補について話し合う。(15分)</p> <p>3. ピラミッドチャートを用いて、グループで考えを交流する。(10分)</p>	<p>T2: それでは、皆さんの考えを教えてください。</p> <p>C4: 私はマスクケース作りがいいと思います。おしゃべりしながら、簡単に作ることができるからです。</p> <p>C5: 私は、折り紙がいいと思っています。参加者同士が折り方を教え合って関わることができるからです。</p> <p>C6: 私は、トランプがいいと思います。トランプはたくさんの遊び方があって、選んでもらえるからです。</p> <p>C7: ぼくもトランプがいいと思います。トランプは誰でも簡単に安心してできるからです。多くの人とできるよさもあります。</p> <p>C8: ぼくは将棋がいいと思います。トーナメント戦にすれば仲良くなることができると思うからです。</p> <p>C9: 私はカルタがいいと思います。ルールを説明しなくても、みんなが分かる方がいいところだと思います。</p> <p>C10: 私はラジオ体操がいいと思います。どんな人にもできる運動だと思うからです。でも、関わりがあまりできないとも思っています。</p> <p>C11: 私は、オセロがいいと思います。ゲームで脳の運動になるからです。でも交流が少し少ないと思っています。</p> <p>T3: なるほど、たくさんの候補が出てきたね。では、ここまでの話し合いで2つに決めることってできそうですか。</p> <p>C12: 難しいと思う。ピラミッドチャートを使うといいかもしれない。</p> <p>T4: では、ピラミッドチャートを使う時の条件はどうしますか。</p> <p>C13: 手紙にあった「安心」「交流」「接触」の3つの条件で比べたいと思います。 (ホワイトボードでの3人組での話し合い)</p> <p>T5: それではある程度の結論は出せましたか。結果を伝え合う前に確かめた方がいいとか、悩んだところがあったグループってある?</p> <p>C14: 少しなやんだところがあります。それは、オセロについてです。オセロは交流できるかどうかについて話し合いました。オセロは、2人でしかできなくて、会話の少なさから、上に上げてよいか迷いました。</p>	<p>○子どもが考えの根拠を意識しながら、話し合いに参加することができるように、発表された意見についての「よさ」と「課題」に分けて板書する。</p> <p>○黒板で子どもの発言を整理する際に、多くの子どもたちが重要だと感じている事実を可視化するために、発言が多い部分については、アンダーライン等で強調して表すようにする。</p> <p>○3つの条件を意識して、話し合うことができるように、ピラミッドチャートを準備しておく。</p>

<p>4. 「交流」のイメージについて話し合う。(13分)</p>	<p>T6: 他のグループは、オセロってどうなっている？ C15: 私たちは、オセロは交流できていると考えました。それは、話しながらできるからです。 C16: ぼくらは、交流できると思いました。人数というより、やりながら話ができる方が大切だと思っています。 T7: あるグループでは、複数の人が関わることを交流と考えているんだね。だけど、あるグループでは、一対一でも会話ができれば、交流はOKと考えているんだね。交流のイメージが違うのかもしれないね。ちょっと3人組で、お互いが考えている交流ってどんなイメージなのかを話し合えるかな。 T8: 交流ってどんなイメージでしたか？ C17: ゲームやもの作りをしながら、会話をすること。 C18: そして、仲良くなれたらもっといいと思う。 T9: 交流について、話し合う前に比べて、かなりイメージがくつきりしましたね。他の活動については、交流って本当にクリアできているか確かめられますか。 (再度、ピラミッドチャートを見直す) C19: 少し結果が変わりました。ピラミッドの上まで上がっていたけれど、見直したものもありました。 T10: 今日話し合ってきて、どんな活動はできそうだなと感じていますか。 C20: トランプやカルタなど、会話をしながら複数の人が参加できるものについては、やることができそうだと思います。</p>	<p>ピラミッドチャートで話し合った際に迷った点があったグループを取り上げ、「交流ができる」とはどんな様子なのか、話し合う時間をとる。 <くしかけ></p> <p>○根拠を明確にして、話し合うことができるように、3人でホワイトボードを準備しておく。</p>
<p>終末 5. 学習を振り返る。(5分)</p>	<p>T11: では、最後に振り返りを書きましょう。 <振り返りの視点> ①分かったこと ②学び方でよいと思ったこと ③自分に生かしていきたいこと</p>	<p>○自らの学びを省察することができるように、振り返りの3つの視点を示す。</p>

7. 本時の評価規準

「交流ができる」とはどんな様子なのかを話し合う活動を通して、交流をするということは、一緒に活動を行うだけではなく、お互いに言葉を交わしながら仲良くなっていくことだと気づいている【発言・振り返りの記述】

8. 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

9. 板書計画

